

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスきらり 中安井ルーム			
○保護者評価実施期間	2024年 8月 3日 ～ 2024年 8月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2024年 8月 3日 ～ 2024年 8月 13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 10月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	クラブ活動の実施	こどもの興味や関心をもとに年間計画を立てる。もともと興味のある事柄についてはより深く、また新たな事柄についてはチャレンジし「好き」を見つけられるよう様々なジャンルの活動を用意している。また、全事業所通しての取り組みで体育館等で合同で行うこともある。	クラブ活動も3年目に入ったため、形式化しないよう新しい取り組みを取り入れていく必要がある。今年度は（運動）クラブ活動の集大成として2月に体育館を借り運動会を行う予定。
2	プログラムが固定化されないよう職員全員で取り組む	夏休みなどの長期休暇や祝日については必ず行事を入れる。「ぶどう狩り」や「茶道体験」「外食」や「買い物体験」などこどもが楽しめるものや「祭りの参加」など地域との交流や生活に根付いた支援が行われるよう努めている。	今後もこどもや保護者にとって魅力的な事業所であるために、職員が各自自分の得意な分野について見識を深めたり、幅広く情報を集めたりしていく。外部の研修などにも積極的に参加していく。
3	こどもや保護者の相談事や意向に耳を傾ける	帰り送迎時などちょっとした心配事や自宅での様子など保護者の方が話しやすい雰囲気を作る。検討が必要な内容であれば持ち帰り、全スタッフで話し合う。必要に応じて家庭訪問をしたり電話にて相談に応じたりしている。	今後、保護者同士のかかわりや情報共有できる場の提供ができればと考えている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対しての支援プログラム（ペアレントトレーニング）が十分ではない。また、家族や兄弟が交流するような場がない。	事業所でトレーニングを実施するには専門的知識が足りないで情報提供に留まっている。また、共働き家庭が多く、過去に保護者参加型の行事を行ったが参加者が極端に少なかった。	ペアレントトレーニング指導者講習の受講や外部講師の要請など。また、家族参加型の行事の計画（気軽に参加できるものから）
2	地域との交流が少ない。	事業所の校区、自治会とのかかわりが薄い。近隣の施設などの社会的資源を活かしきれていない。	日頃より地域行事について情報収集を行い、積極的に参加する。ボランティア活動などの参加を検討したり、地域ボランティアの活用を検討する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		こどもデイサービスきらり 中安井ルーム										
		公表日 2024年 10 月 25 日										
		利用児童数					2 名		回収数		2	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2						活動スペースは十分に確保されている。安全面に配慮し全体にマットを敷き、机などの配置にも配慮している。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	2						介護福祉士2名・保育士1名有資格者配置 児童指導員:常勤4名 非常勤 2名 あい・さかいサポートリーダー1名 在籍中			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2						段差などなく、トイレも非常に広く、手すりを設けるなど過ごしやすい環境を整えている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2						スタッフが子どもの様子を見渡せるような広い空間になっている。午前中には事業所の清掃消毒を行う。また、気持ちを落ち着けるためのスペースも用意している。			
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2						年6回の事業所内研修に加え、外部研修を受講する機会を設け日々支援について研鑽している。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2						支援プログラムについては令和7年4月に向けて現在促成中。			
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2						アセスメントをとり、保護者からの聞き取り、事業所内の個別支援会議を行い、個別支援計画案の作成を行い、こどもと保護者のニーズに応えられるよう作成している。			
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2						ガイドラインの項目を踏まえ、子どもの支援に必要な内容の設定を行っている。			
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2						個別支援計画や専門的支援計画に沿って支援。また月ごとにクラブ活動を計画し、活動の中から個々の課題にあった支援を行う。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2						個別支援計画に基づき個々に対応した活動を準備、提供。事業所全体の取り組みとしては2021年より「きらくら」として運動・文化クラブを実施。様々なことさらに興味を持っていただけるよう幅広い活動を提供。			
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2						福祉祭り等、積極的に参加。市の体育館やグラウンドを利用したり、外出先で公園を利用するときなど地域の方たちとの交流している。			
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2						契約時に重要事項説明書等を用い、事業所の基本方針や支援内容等説明を行っている。また不明な点は随時対応している。			
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2						その都度支援計画を提示し説明。			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1			1			研修会や支援プログラム等の実施はないが、保護者の方が知りたいことや相談事などがあった場合には情報を収集しし提供している。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2						連絡帳にその日の様子を記入。また、帰り送迎時には職員から直接お伝えもしている。あわせてご家庭での様子や体調面についてお聞きしている。その日のご様子を写真(LINE)で送ることもある。			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2						送迎時に児童の様子について話そうにしている。また、相談等については事業所に持ち帰りスタッフ間で共有したり話し合いの場を持つようにしている。状況により家庭訪問なども行う。			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2									
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		2					父母の会や保護者会等の開催はないが、今後保護者やきょうだいが参加していただけるような取り組みを準備していきたい。			
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1	1				契約時に虐待防止についてや苦情受付窓口についての説明を行っている。その他相談事項については家庭訪問をしたり、直接事業所にきていただくなど迅速に対応している。				

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1	1				ホームページでは日ごろの活動の様子を写真つきで報告している。行事予定や業務に係る事項についてはLINEや書面を通して定期的にお伝えしているがより浸透するよう努めたい。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2					契約時に、重要事項の中で説明を行う。個人情報の取扱いが適正に行われるよう研修やミーティング等で職員への周知をはかっている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1	1				各マニュアルはすぐに目を通すことのできる場所に配置。訓練等の実施については予定表およびホームページで発信している。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1	1				様々な想定のうち隔月で避難訓練を行っている。また、非常用の持ち出し袋や非常用トイレ、非常食、非常用の電源の確保も行っている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2					普段から死角を作らないよう心掛けている。机や棚の上に上らないよう配置に工夫をし怪我の防止対策を行う。危険行為の伴う児童についてはマンツーマンで見守る。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2					事故等があれば速やかに保護者や関係機関に報告。迅速な対応を心掛けている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2					今後も保護者、子どもともに安心して楽しみに来所していただける環境作りを心がけていきたい。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2					
	29	事業所の支援に満足していますか。	2					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもデイサービスきらり 中安井ルーム			公表日		2024 年 10 月 25 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	活動スペースは十分に確保されている。安全面に配慮し全体にマットを敷き、机などの配置にも配慮している。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	介護福祉士2名有資格者配置 児童指導員:常勤4名 非常勤 2名 昨年度あい・さかいサポートリーダー研修受講し、リーダー1名在籍			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	段差などなく、トイレも非常に広く、手すりを設けるなど過ごしやすい環境を整えている。また、利用児童の特性にあわせ、設備の配置変え等も行う。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	スタッフが全体を見渡せ、子どもの様子が見渡せるような広い空間になっている。また、気持ちを落ち着けるためのスペースも用意している。毎朝、清掃消毒作業を行っている。	カームダウンスペースがあるが、3方向壁に囲まれた空間であるものの完全個室ではない。他児童の出入りも可能なため見直す必要もあり。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	個別の部屋はないが、必要に応じて学習に集中して取り組めるスペースを利用してもらっている。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	よりよい支援に向けてPDCAを意識した取り組みを行っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	保護者からのご意見があれば、ミーティングや会議等で対応策を話し合い実践していくようにしている。また、保護者にも改善点等を報告。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	ミーティングや面談等職員が個々の意見を発言する機会がある。発言しやすい風通しのよい環境づくりを心がけており、その内容をよりよい支援のために改善にむけて検討している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	苦情解決等については窓口を設け、契約時に保護者にお知らせをしている。なにかあればその都度、話し合い改善へと繋げていく。また、改善状況のチェックも継続して行っていく。	第三者による評価は行っていない。今後の検討課題とする。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	事業所内で隔月で内部研修を実施。堺市消防局通信指令課による救命講習や近畿中央呼吸器センターの感染認定講師の方による研修を行った。その他外部研修にも積極的に参加している。	個々に受講した研修については報告書を作成しミーティング時などに報告しているが、全スタッフにより研修内容が還元されるようにしていきたい。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	0	6		来年4月に向けて現在作成中。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	アセスメント、保護者からの聞き取り、事業所内での個別支援会議を行い、個別支援計画案の作成を行う。その後、保護者の承諾を得た後、個別支援計画の作成。保護者に説明した後署名をいただいている。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	毎月、作成対象者について全職員参加での支援会議を行っている。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	事業所内で個別支援会議を行い、作成段階から参加し内容を共有。計画に沿った支援を実施している。	会議に参加の難しい非常勤職員などにも計画の内容が行き渡るよう共有の徹底を行いたい。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	日々の行動観察などによるアセスメントを中心に確認している。フォーマルアセスメントについては医療機関等で受けたものを保護者から提供をうけ確認。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	ガイドラインの項目を踏まえ、子どもの支援に必要な内容の設定を行っている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	毎月の職員会議や日々のミーティング、主任会議など様々な角度からプログラムの立案を行っている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	月ごとにクラブ活動を計画し活動の中から個々の課題に合った支援をおこなっている。また児童の興味や関心にあわせ、新しい取り組みを取り入れている。			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	個別活動と集団活動については専門的支援計画書にてより詳細に作成。支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	毎朝実施。前日のこどもの様子を全スタッフで共有。また当日予定しているプログラムや送迎の確認も行う。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	緊急を要したり重要な事案などについては支援終了後に必ず職員間での共有をはかる。それ以外については翌朝のミーティング時におこなう。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	利用時の様子は支援経過に記録。連絡帳や業務日誌にも併せて記録する。連絡帳は複写式で1枚は事業所保管、もう1枚は家庭用となっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	基本は6か月に一度行う。こどもの発達状況や保護者の意向等の変更があった場合や、支援会議にて必要性を感じた場合はその都度見直す。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	会議には原則、児発官が参加するようにしているが、参加にあたって事前のミーティング等で職員の見解を反映できるようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	必要に応じて各種機関と連携して支援を行っている。	セルフプランのこどもに関しては連携が難しいが、今後も保護者に間に入って頂き連携を密にとっていくよう心がける。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	利用開始時には直接赴き、送迎時の注意点など確認を行う。また普段の送迎時にも園での様子や体調面の申し送りを行っている。また、事業所での様子や日ごろの支援について確認も行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	移行先の小学校に直接赴く、または電話等で情報、および支援内容等の共有を行っている。	必要に応じて担当者会議などの場を持つことも検討。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	0	6	スーパーバイズという形で助言をいただく機会はなかったが、過去にセンター主催の研修等に参加することがあった。	今後も何かあってから連絡をとるのではなく、日ごろよりの連携を大切にしていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	地域の行事（福祉秋祭りや障がい者週間フェスティバル）などに参加。また、地域の公園や体育館を利用するなど地域の方との交流がある。	今後も地域の人たちとの関わり合いの中で社会性を育ていけるよう積極的に活動の場を広げていく努力をする。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	相談については送迎時や電話で随時相談に応じる様になっている。その場では対応できない場合は必要に応じて訪問したり、改めてお電話にて対応させていただいたりしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	研修会などは実施していないが保護者からの要望等があれば情報提供を行うようにしている。	普段からご家族のご要望に沿えるよう情報収集し、指導者研修などについても視野にいれていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に説明している。	
保護	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	アセスメント、保護者およびこどもからの聞き取りの機会を設け、事業所内での個別支援会議を行い作成を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、同意をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	送迎時や電話などその都度ご相談に対応させていただいている。必要に応じてご自宅に訪問させていただいたり、その他機関に間に入っていただくなどの支援を行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	6	父母の会や保護者会等の開催は行っていない。	今後保護者やきょうだいに参加していただけるような取り組みを準備していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	契約時に虐待防止についてや苦情受付窓口についての説明を行っている。その他相談事項については家庭訪問をしたり、直接事業所にきていただくなど迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	ホームページでは日ごろの活動の様子を写真つきで報告している。行事予定や業務に係る事項についてはLINEや書面を通して定期的にお伝えしている。	ホームページ等で発信しているが今後もより多くの情報を知っていただけるよう工夫していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	契約時に、重要事項の中で説明を行う。個人情報の取り扱いが適正に行われるように研修ミーティング等で職員への徹底をはかっている。個人情報を書かれたファイルなどは鍵付きの書庫に保管。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	コミュニケーションツールを用いるなど配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6	行っていない。	今後の検討課題である。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	各マニュアルはすぐに目を通すことのできる場所に配置。訓練等の実施については予定表およびホームページで発信している。火災、地震、大雨、不審者等各種想定した訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	業務継続計画（BCP）策定済。災害発生に備え、各種備品の確保、避難訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	てんかん発作等の持病のある児童や服薬している児童については保護者を通じて確認を行っている。また変更がないか定期的に確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	現在食物アレルギーのあるこどもはいないが対応する準備はある。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	安全管理に必要な研修の受講（「障がいのあるこどもに対する蘇生法を学ぶ」R6.10など）したり、普段から死角を作らないよう心掛けている。机や棚の配置に工夫をし怪我の防止対策を行う。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	契約時に説明している。取り組みについてはその都度お便りやSNSなどで報告している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	3	ヒヤリハットを感じた時、すみやかに所定の用紙に記録し提出。毎朝のミーティング時に全スタッフで共有している。	ミーティング時の日々の振り返りだけでなくヒヤリハット再発防止についての対応など改善されているか継続的に見ていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	虐待防止委防止委員を中心に毎年研修を実施している。また虐待の芽チェックリストを実施し日ごろの支援の振り返りなどを行う。外部研修にも参加。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	契約時に保護者に説明している。身体拘束適正化委員会の指針に沿って、具体的に必要性が懸念された場合には保護者に了解を得たうえで支援計画に記載している。	